

## はじめに

新学習指導要領が全面実施され、「知識・理解」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点が打ち出されました。この3観点によって、教育現場の声としてよく聞かれるのは次のことです。

「主体的に学習に取り組む態度って、どう評価するの？」

みなさんはいかがでしょうか。私自身も同じ疑問を抱いた一人です。「主体的って、やる気があるかどうかってこと？」「やる気なんて、目に見えない。評価なんてできないよ」と。そんな疑問を抱いていたとき、ある言葉に出会いました。それが、「自己調整学習」です。

自己調整学習とは、次のような学習のことをいいます。

学習過程のすべてに学習者自身が能動的にかかわり、自己の認知活動や行動をコントロールしながら、効果的に学習目標を達成していこうとする学習スタイルのこと（藤永保監修『最新心理学事典』平凡社、2013年）

子どもたちに学習を任せしていく。子どもたちが自分の学習を決めていく。これからの時代の教育として、とても魅力的に聞こえる言葉です。

しかし、一方で、「本当に子どもたちに力がつくのか？」「テストの点数が下がってしまうのではないか？」「学習中に遊んでしまうかもしれない？」などと、不安や疑問も抱いてしまうことでしょう。実際、こうした不安や疑問は、過去の私自身にもありました。

今から約10年前、「子どもたちに学びを任せる」という授業法と出会ったときのことです。それまで、一斉授業でしっかり子どもたちの学びを引っ張り続けてきた私にとって、その学習法には、当初、疑心暗鬼でした。しかし、その授業法を教えてくれた先生が、「子どもたちがすごく成長するから、一度試してみてごらん」と背中を

押してくれたのです。

すると、どうでしょう。これまでただじっと私の話を聞くだけだったり、発表できる子だけが発表したりしていた授業での子どもたちの様子が、みるみる変わっていったのです。廊下まであふれていくくらいのエネルギー。自分の乗り越えるべき課題が見つかったときに、何とか乗り越えようと挑戦する必死の姿。そして、「一緒にやろう！」と子どもたち同士で乗り越えようとする連帯感。

これまで取り組んできた授業はいったい何だったのかと思うほど、子どもたちの夢の中で学ぶ姿に圧倒されました。

「子どもたちに任せる」ことを始めたことによって、授業中の子どもたちが本気になって学習に取り組み、どんどん成長していったのです。そして、続けているうちに「教えない」授業を成功させるためには、不可欠のポイントがあることも分かってきました。

本書では、10年間、私が取り組み続けた「教えない」授業に必須の指導のポイントをすべて記させていただきました。「教えない」「任せる」と聞くと、「大丈夫かな？」「本当にできるのかな？」と心配する先生もいると思いますが、ご安心ください。

本書をきっかけに、全国の教室で、本当の意味で子どもたちが主体的に学び合う授業が展開されることを願っています。

さあ、一緒に子どもたちに任せる「教えない」授業を実践していきましょう。

丸岡慎弥

## ▶▶ CONTENTS

はじめに ..... 3

### Chapter 1 >>

#### 子どもが自分でどんどん学び出す! 「教えない」授業の基本ポイント

1 主体的な取り組みで学習効果はグッと高まる ..... 12

2 子どもたちには「魚の捕り方」を教える  
——学びの伝達 ..... 14

3 子どもが主体的に動き出すための3ステップ  
——「リード→サポート→バックアップ」 ..... 16

4 成長ステップは4段階で考える ..... 18

5 学びの責任モデルを意識する ..... 20

6 子どもたちが自分で学び出すための絶対条件 ..... 22

7 教師が押さえておきたいファシリテーションの  
基礎・基本 ..... 24

Column 1 「方法を教える」+「任せる」で  
一気に社会科大好きに! ..... 26

### Chapter 2 >>

決め手はここ!

#### 自己調整学習力をアップさせる 必須スキル 10

1 成長マインドセット ..... 28

2 教科書を自力で読むスキル ..... 30

3 自ら学ぶノートスキル①——型 ..... 32

4 自ら学ぶノートスキル②——箇条書き ..... 34

5 自ら学ぶノートスキル③——自分の考えを書く ..... 36

6 自ら学ぶノートスキル④——メモをとる ..... 38

7 質問スキル①——質問マインド ..... 40

8 質問スキル②——質問の種類 ..... 42

9 意見の出し方スキル①——意見の種類 ..... 44

10 意見の出し方スキル②——批判的意見 ..... 46

Column 2

「どんどん動こう」「どんどん話そう」で  
特別支援学級の子も安心して学べる! ..... 48

### Chapter 3 >>

みるみる夢中に！

## 子どもが自分で学び出すための 学級づくり

- 1 幸せの4因子を取り入れて自己調整力を高めさせる ..... 50
  - 2 朝の会で子どもの状態を高める ..... 52
  - 3 朝の会で「ありのまま」の自分を見つけさせる ..... 54
  - 4 配り物、学級当番、給食で  
「ありがとう因子」を高めさせる ..... 56
  - 5 掃除で「やってみよう因子」を高めさせる ..... 58
  - 6 帰りの会で「なんとかなる因子」を高めさせる ..... 60
  - 7 会社活動をクラスに取り入れる ..... 62
- Column 3** 会社活動も子どもたちに任せると  
大盛り上がり！ ..... 64

### Chapter 4 >>

自己調整学習力がぐ～んとアップ！

## 「教えない」授業システム

- 1 各教科における「リード→サポート→バックアップ」 ..... 66
  - 2 「学びの責任モデル」で単元の流れをつかむ ..... 68
  - 3 「学びの責任モデル」で1時間の授業の流れをつかむ ..... 70
- └ リード ┘
- 4 学習への興味付けの具体的方法 ..... 72
  - 5 学習の視点のもたせ方 ..... 74
  - 6 事前学習で全員を学習のステージへ ..... 76
  - 7 質問や疑問の出させ方 ..... 78
  - 8 第1次の子どもの意見を単元に活かす ..... 80
  - 9 ペアトークを駆使しよう ..... 82

### サポート

10	まずは「マネ」から思考を促す	84
11	学びのポイントで「確認」を入れる	86
12	学び合いの前の個人学習	88
13	協働学習の効果的な仕組み方	90
14	班や自由なグループで学び合い活動を行う	92
15	学び方のモデルと評価を示す	94

### バックアップ

16	1 時限の学びをノートにまとめさせる ——視点と意欲のもたせ方	96
17	学びのまとめを発表させる	98
18	まとめは4段階で評価させる	100
19	「振り返り」と「交流」で新たな気付きを起こさせる	102
20	学習状況の見極めと調整で自力解決力を育む	104
21	宿題や家庭学習で「その先」への興味を引き出す	106

### Column 4

画期的な授業も  
まずは信頼関係づくりから！ 108

### Chapter 5 >>

## 「学びたい」が飛び交う教室に！ これからの時代に不可欠な 自分で学ぶ力

1	「主体的に学習に取り組む態度」とは	110
2	自己調整学習力を高めさせる	112
3	ICTフル活用	114
4	GIGAスクール×銅像教育	116
5	学びをリアルな社会につなげる	118
6	ポストコロナ時代に求められる自己調整学習力	120
7	20年先を見据えた教育を	122
Column 5	オンライン学習も 授業の基礎・基本があってこそ！	124

おわりに 125

# 1 主体的な取り組みで 学習効果はグッと高まる

「主体的に学習に取り組む態度」を育てる指導力が求められてきています。その土台となる考え方を、まずはしっかりと押さえましょう。

## ■ 「自分から学んでいる！」という感覚をもたせる

子どもたちが学習を「やらされている」状態と、「自分から進んで取り組んでいる」状態を思い浮かべてみてください。果たして、どちらが学習効果を高めるかは、言わずもがなです。

さまざまな研究結果からも、人は、「自分で動いている」という感覚を抱くことによって、やる気や集中力を発揮させることができるといわれています。今後、教師に求められる教育技術は、子どもたち自身が「自分から学んでいるんだ！」という感覚をもたせられるかどうかがカギとなります。

## ■ まずは「楽しい」と思わせる

では、どのようにして「自分から学んでいるんだ！」という感覚を抱かせることができるでしょうか。そのカギとなるのが、子ども自身が「楽しそう」「楽しい」と思えるかどうかです。この思いが生まれることによって、自然と思考も体も動いていきます。

そのためには、授業の導入時が重要です。子どもたちに「学習って楽しい」「何が学べるのかワクワクする」と思わせる言葉かけや夢中を引き出していくような仕掛けに力を尽くしていきましょう。

## ■ 「指導スキル」と「学習スキル」はセット

学校現場においては、「教師がどのように教えるか」という視点を中心に指導することがほとんどではないでしょうか。もちろん、教師の指導スキルの向上は大切なことなのですが、同時に、「子どもたちがどのように学んでいるか」の視点とその検証も不可欠です。

教師の指導スキルの検証と子どもの学習スキルの検証、これらは両輪で動いていることを忘れてはなりません。

### ここが押さえどころ！



指導者と学習者はスキルもセットで検証！

### 学年別指導POINT!

低学年は「学習スキルを丁寧に」、高学年は「夢中になる仕掛けを」が指導のカギとなります。目の前の子どもたちの発達段階を踏まえた学習指導を心がけましょう。

## 3 子どもが主体的に動き出すための3ステップ —「リード→サポート→バックアップ」

すべての学習で意識したいのが、「リード→サポート→バックアップ」の3ステップ理論です。学習には段階があることを押さえましょう。

### リード期：教師がきちんと教える

「リード→サポート→バックアップ」とは、教育の仙人といわれた壇<sup>だん</sup>八正隆先生が生み出した理論です。この第1のステップとなるリード期が、学習においての土台づくりとなります。「子どもたちが主体的に学ぶ力につけるためには教師は教えてはいけない」と思っている先生もいるようですが、まったくそんなことはありません。学びの第一歩ですので、むしろ教師が丁寧に教えなければなりません。

知識・技能はもちろんのこと、学習への興味付け、学び方のスキルなど、教師がしっかりとリードしていくことを忘れないようにしましょう。

### サポート期：子どもたちに寄り添う

子どもたちに学習への興味付けが十分にできたところで、いよいよサポート期に入ります。ここでは、教師は子どもの傍らで寄り添うようなイメージで子どもたちの学習に関わるようになります。

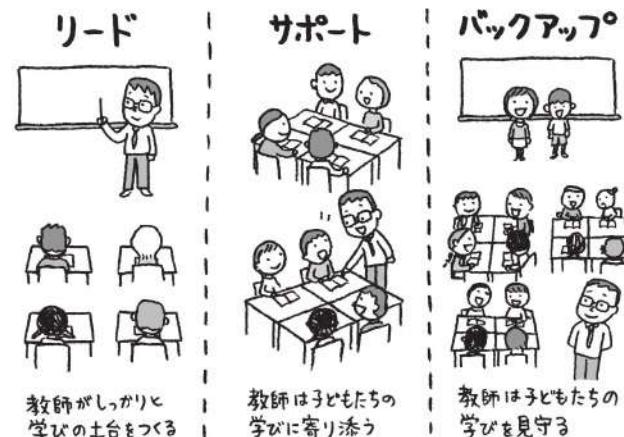
例えば、国語科において、「言葉の意味の調べ方を教える」→「分からない言葉の意味自分で調べさせる」というように、子どもに少しずつ学習を委ねるようにしていきますが、委ね始めは子どもたちも少なからず不安や戸惑いを抱くものです。その不安や戸惑いを受け止めながら、指示や声かけを通して子どもの気持ちに寄り添っていきましょう。

### バックアップ期：手を離しても目は離さない

子どもたちが自分たちが主体となった学習の仕方に慣れ、自信をもつようになってきたら、いよいよバックアップ期に入ります。教師が子どもたちの後ろに回るイメージで見守るようにしていきます。

ただし、「手を離しても目は離すな」と言われるように、子どもたちへの意識まで離してはいけません。1人1人の取り組みに丁寧に目を配りながら、「何かあればすぐに動く」という意識を常に携えて見守っていきましょう。

#### ここが押さえどころ！



#### 学年別指導POINT!

学びを委ねることに慣れないときは、焦らずサポートに徹し、ゆっくりとバックアップ期を目指します。高学年ではステップの歩みを少し早めても、低学年ではじっくり時間をかけましょう。

### 3

## 自ら学ぶノートスキル① —型

子どもたちが主体的に学習するために高めたいスキルが、ノートです。特に初期段階では、「型」をきちんと教えなくてはいけません。

### 守・破・離をノート指導に活用

「守・破・離」という言葉があります。まずは教えを守り、そして、その教えを破って（自分なりの方法を生み出して）、教えから離れていくという意味です。これは、「リード→サポート→バックアップ」の考え方とも通じています。

子どもたちが主体的に学習するために、また、教師が「教えない」授業をするために、まずは基礎・基本をきちんと教えなければなりません。その1つが、ノートです。プリントでは、教師の手順通りにしか進めませんが、ノートは、子どもたちにも裁量があるのです。

### 見本を見せ、やらせてみて、確認し、ほめる

「日付をノートに書く」「ページ数をきちんと書いて赤鉛筆で囲む」「学習課題を赤鉛筆で囲む」など、学年にかかわらず、これらのこととを授業開きで丁寧に押さえていきましょう。授業開きの段階で「自分なりのノートを作ってみましょう」などとは、決して言ってはいけません。

この時期は、教師が子どもに書き方の見本を見せ、次にやらせてみて、さらに確認し、仕上げにできていることをほめることを根気よく行っていきましょう。

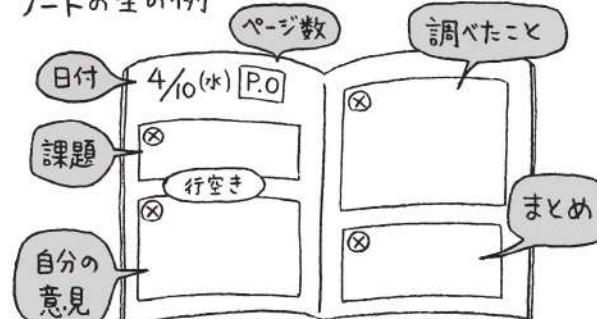
### 「行空き」「マス空き」を使いこなせるように

子どもたちは、うまくノートが書ければ書けるほど、ノートを書くことが好きになり、意欲的に取り組んでいきます。

ノートをうまく書くには、型を示すことが大切ですが、もう1つのコツがあります。それは、「行空き」と「マス空き」の指導です。高学年でも疎かにせず、初期の段階では「1行空けましょう」「1マス空けましょう」と声をかけながら教師が確認していくようにします。

### ここが押さえどころ!

#### ノートの型の例



型から出発するから自分なりのノートができるようになる

### 学年別指導POINT!

うまくノートが書けない子どもには、上手な子どものノートを写させる視写が効果的です。低学年では、教師が見本を見せたり、高学年では上手なノートを掲示して意欲を引き出すのも有効です。